

「ネシツムマブ+CDDP+GEM 療法」について

この治療法は、肺癌の代表的な治療法です。ネシツムマブ、シスプラチン(CDDP)、ゲムシタビン(GEM)の3種類の薬剤を使用します。

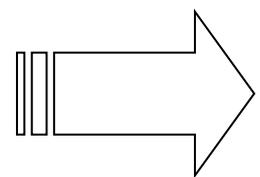
1. 投与方法

Rp	薬剤	効能または使用目的	1日目	8日目
1	ネシツムマブ	抗がん剤	○(60分)	○(60分)
2	生理食塩液	点滴ラインの洗浄	○(5分)	○(5分)
3	ホスネツピタント+ デキサメタゾン+ パロノセトロン	吐き気予防	○(30分)	
4	デキサメタゾン	吐き気予防		○(5分)
5	生理食塩液	点滴ラインの洗浄	○(5分)	
6	アルパラギン酸カリウム注+ 硫酸マグネシウム補正液+ 生理食塩液	腎機能保護	○(60分)	
7	ゲムシタビン	抗がん剤	○(30分)	○(30分)
8	シスプラチン	抗がん剤	○(60分)	
9	生理食塩液	腎機能保護	○(120分)	

2. スケジュール

ネシツムマブ+CDDP+GEM は21日サイクルで抗がん剤を投与していきます。初日、8日目に抗がん剤を投与すると残りの13日間は「休薬期間」といい、体調の回復を待ちます。その後同様にして治療が進みます。

	1サイクル目		
	1日目	8日目	9日目~21日目
投与日	○	○	—
休薬日	—	—	○



3. 特徴

●ネシツムマブ

作用:がん細胞表面のEGFR(上皮細胞増殖因子受容体)へ結合し、EGF(上皮細胞増殖因子)の働き(細胞増殖)が抑制されます。

注意事項:点滴中に痛みや違和感を感じたらお知らせください。



●ゲムシタビン

作用:がん細胞の DNA に取り込まれて、その合成が進まないようにします。

注意事項:点滴中に痛みや違和感があった場合はお知らせください。

●シスプラチン

作用:がん細胞の DNA と結合することで抗がん作用を示します。

注意事項:点滴中に痛みや違和感があった場合はお知らせください。

まれにアレルギーを起こす場合があります。発疹、息苦しい、顔がほてる、胸が痛いなどの症状が出たらすぐにお知らせください。

水分の摂取を心がけてください(1日1. 5L~2Lくらい)。

4. 副作用

抗がん剤治療によって起こりうる主な副作用の種類、予防法、そしてそれが出現したときのひとまずの対応方法を知ることが副作用対策の第一歩です。ここでは比較的高頻度に出現する副作用と頻度は少なくとも注意が必要な副作用(有害作用)について掲載しました。

(ただし、頻度や強さには個人差があることをご理解の上で、参考にさせていただきたいと思います。)

吐き気・嘔吐

好発時期:治療当日から数日間

症状の出方は個人差があり、数日後から出てくる方や、症状が7日間程度続く方もいます。

対策:抗がん剤による吐き気の強さに応じて事前に吐き気止めの点滴を行います。

症状にあわせて吐き気止めを処方させていただきます。上手くコントロールできない場合はお伝えください。考えすぎるとそれだけで症状が出てくることがあります。リラックスしてあまり考えすぎないようにしてください。

食事は無理せず、食べられるものを少量取っていただいても結構です。

水分(水、スポーツドリンクなど)はなるべく取っていただいた方がよいでしょう。便秘の予防にもなります。

便秘は吐き気の原因にもなります。必要に応じて下剤を服用することをお勧めします。

部屋の空気を入れ替えたり、趣味を楽しんだりすることで吐き気が楽になることもあります。



食欲不振

好発時期:治療開始から数日~1週間程度で一時的に低下してくることがあります。

対策:食欲がないときには無理をせず、食べられるものを可能な範囲でバランスよく食べましょう。

症状が長引くときはご相談ください。

皮膚障害

ネシツムマブの投与により、以下のような皮膚に対する副作用が現れてきます。

- ・ニキビのような発疹や吹き出もの(好発時期:1~4週)
- ・皮膚の乾燥やひび割れ(好発時期:3~5週以降)
- ・かゆみ
- ・爪周囲の炎症(好発時期:4~8週以降) など

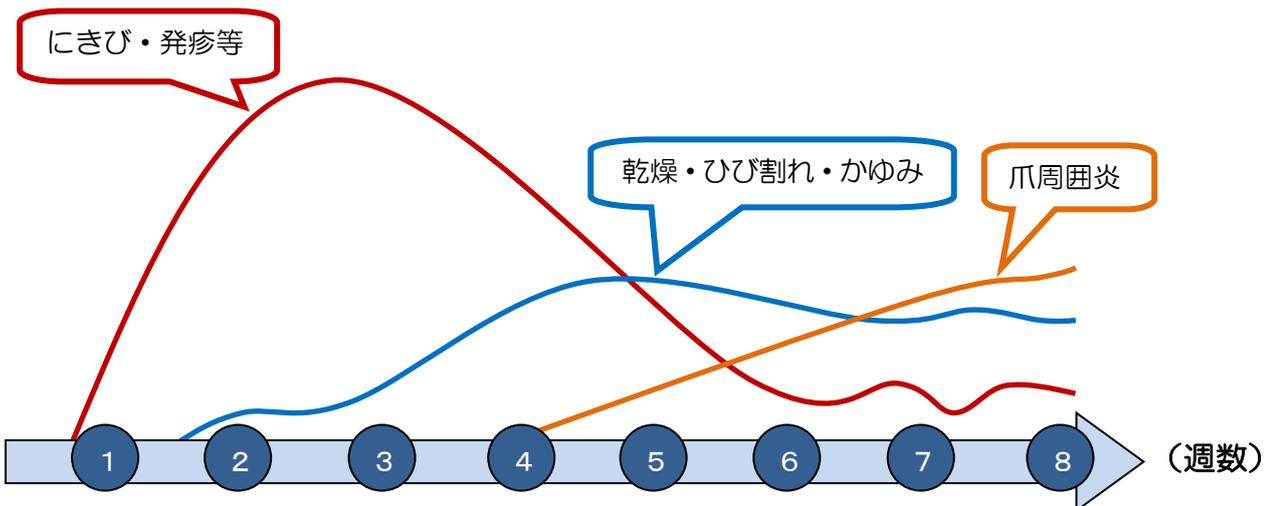
対策: 予防的なスキンケアが皮膚障害の発現を少なくすることが分かっています。日常生活で以下のような対策を取っていただくことをお勧めします。

- 入浴やシャワーで清潔を保持し、入浴後は乾燥を防ぐことを心がける
 - ・刺激の少ない石鹸等を使用する
 - ・熱いお湯やシャワーは避ける
 - ・入浴後は保湿剤を塗布して乾燥を防ぐ
- 外出時は直射日光を避ける(紫外線対策)
 - ・SPF(30)、PA(++)などの日焼け止めを使用する(汗をかいたときは塗りなおしてください)
 - ・帽子や長袖などで直射日光を防ぐ

日常生活以外では、薬剤を使用することで予防や、治療を行うことがあります。

- ・抗生剤の予防的内服:ミノサイクリン
- ・保湿剤:ヘパリン類似物質油性クリーム・液など
- ・ステロイド:ヒドロコルチゾン酪酸エステル軟膏、ベタメタゾン軟膏、ジフルプレドナート軟膏 など

皮膚障害発現時期 (イメージ)



白血球減少

白血球は体の外から侵入してきた細菌等に対して体を守ってくれる(免疫反応)役割があります。白血球が少なくなると細菌等による感染が起こりやすくなり、感染すると発熱や倦怠感などの自覚症状が現れてきます。場合によっては入院治療が必要な場合もあります。

好発時期: 抗がん剤を投与後14日目くらいに減少のピークを迎え、21～28日目くらいには回復します。

対策: 細菌は手を介して口から入ってくるケースも少なくありません。**手洗い、うがい**を心がけましょう。

外出時は**マスク**を着用してください。

虫歯が原因になることもあります。虫歯のある方は抗がん剤治療を行う前に治療をしておくことをお勧めします。

好発時期に38℃以上の発熱があった場合はご連絡ください。



血小板減少

血小板は出血を止める働きがあるため少なくなると止まりにくくなったり、出血しやすくなったりします。

好発時期: 抗がん剤を投与後14日目くらいに減少のピークを迎え、21～28日目くらいには回復します。

症状としては、あざができやすい、鼻血などの粘膜からの出血が起きやすくなったなどです。

対策: ケガや転倒の危険性がある作業は避けましょう。

歯ブラシは毛の柔らかいタイプを使うと良いでしょう。

口内炎

口の中の粘膜が抗がん剤によって直接傷害されてできる場合と、抵抗力の低下に伴う口腔内細菌の増殖によって起こる場合があります。症状は口腔内の違和感(舌で触るとザラザラするなど)、疼痛、出血、冷温水痛、発赤、腫脹などです。**できやすい場所は下唇の裏側、頬の内側、舌の側面などです。**

好発時期: 抗がん剤投与後、数日～14日目くらいに発症しやすくなります。

対策: 次のような状態は口内炎が発症しやすくなります。

1. 口腔衛生状態の不良

虫歯、歯周病、舌苔が多い、義歯が合っていない、歯磨きやうがいができない(できていない)など

2. 免疫能の低下

高齢者、ステロイドの使用、糖尿病、抗がん剤治療など

3. 栄養状態の不良

4. 口腔付近の放射線治療

5. 喫煙

口腔内血流の低下、白血球・マクロファージの機能低下、歯石の形成などが原因と考えられる。

口内炎には予防が重要です！口の中を清潔に保ってください。

1. 食後の歯磨き

歯ブラシは柔らかいものを使用して不用意に傷を作らないように心がけてください。

2. うがい

歯磨き以外でも口の中が不快な場合(乾燥、違和感、口臭など)はその都度行うことがよいでしょう。水でうがいしていただいても十分効果がありますが、マウスウォッシュを使用する場合は低刺激性のものを選択してください。

3. 禁煙

口内炎ができてしまったら、刺激物や熱いものは避けてください。
水分は刺激を与えないよう、ストローを使うとよいでしょう。
必要に応じてお薬を処方しますので口内炎ができてしまったらご相談ください。
水疱や白苔ができた場合は早めにご連絡ください。

発熱・倦怠感

好発時期: 点滴後2～3日くらいの間が発熱や倦怠感、関節痛、頭痛などが起きることがあります。

対策: 通常は解熱鎮痛剤で対応が可能ですが、症状が改善されずに長引くときは感染の可能性も否定できないため早めにご相談ください。

普段から疲れやすい方は症状が出やすくなりますので、寝不足や過労は避けていただく方がよいでしょう。



脱毛

好発時期: 2～3週間過ぎ頃から起こりやすくなりますが、治療終了後2～3ヶ月で回復し始めます。

対策: 症状が現れたら、回復まではスカーフ、かつらなどを着用していただくとよいでしょう。

外出時は直射日光を避けていただくため帽子をかぶるとよいでしょう。

頭皮を清潔に保っていただくことをお勧めします。ただし、刺激の強いシャンプー等は避けてください。



腎機能障害

腎臓は体内の老廃物を排泄したり、水分のバランスを調節するなど、身体を維持するために重要な働きをしています。シスプラチンは腎臓から尿と一緒に排泄される特徴を持っていますが、余分なシスプラチンは腎臓の機能に影響を及ぼすことが分かっています。このため水分を多く摂取することで尿量を増やし、シスプラチンの排泄を促します。

好発時期: 特に腎臓への負担がかかりやすいのは点滴から数時間とされています。

自覚症状としては頭痛、尿量の変化、むくみなどがあります。

対策: 水分摂取を心がけてください(ただし、水分制限を受けている方は主治医にご相談ください)。

自覚症状が現れたら、早めにご相談ください。

発疹

症状:皮膚が赤くなったり、かゆみや水ぶくれのような症状が出ることがあります。

対策:ひどく続くようであれば軟膏などで対応することが可能です。

もし目や鼻の中、唇の周りなど**粘膜に発疹が出た場合は早めにご連絡ください。**



間質性肺炎

間質性肺炎は、肺が炎症を起こし機能が低下する病気です。確率は低いですが、放置すると重篤化する危険性があります。症状としては**息切れ、呼吸困難、空咳、発熱**などが起こります。また、この症状は肺に病気を持っている患者さんほど起きやすいことが分かっています。上記の症状が出た場合は自己判断せずに早めにご相談ください。

対策:初期症状は風邪によく似ているため自己判断せずに早めにご相談ください。



アレルギー

好発時期:点滴中または点滴後の比較的早い時点で現れることがあります。

自覚症状は、息苦しい、顔がほてる、胸が痛い、発疹が出る、汗が出るなどです。

対策:異常を感じたらすぐにスタッフにお知らせください。

血管外漏出

抗がん剤を点滴しているときに血管の外に薬が漏れてしまう(漏出)ことがまれにあります。症状としては点滴部位の違和感、痛み、腫れなどで、場合によっては血管に沿って症状が出てくることもあります。

好発時期:点滴している間がほとんどですが、帰宅後にもし異常を感じたら早めにご連絡ください。

対策:抗がん剤の種類によって対策が異なります。もし、症状にお気づきになった場合は早めにスタッフにお声掛けください。

※この他にも日常と違った症状が出た場合は病院までご連絡ください。

済生会宇都宮病院
代表:TEL 028-626-5500